声なき感染症を知る ◆35◆

今季の鳥インフルエンザの動向

人に感染の可能性も

家禽類など注意必要

県感染症情報センター

▽今シーズンの状況

鳥インフルエンザは、鳥類に対して感染性を示すA型インフルエンザウイルスによる感染症です。昨年の11月以降、日本各地で野鳥、家禽（かきん）などから高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、養鶏場などで殺処分が行われたところです。

隣国の韓国では、昨年11月から今年2月15日までに家禽の高病原性鳥インフルエンザが3441件発生し、3千万羽以上が殺処分されました。

一方、ヨーロッパ全域及び周辺地域では、日本や韓国とは別のタイプの高病原性鳥インフルエンザが発生しています。

また、エジプトやインドネシアでは、さらに別のタイプの高病原性鳥インフルエンザが継続して発生しています。

奈良県内では、昨年11月以降に高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたという報告はありません。しかし、平成23年2月28日には、県内養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生しているため、関係者は厳重な警戒を行っています。

▽渡り鳥が運ぶウイルス

鳥インフルエンザの原因となるインフルエンザウイルスはA型ですが、A型インフルエンザには多くのタイプ（専門的には「亜型」と呼び、HとNの組み合わせで表記します）があり、人を含む哺（ほ）乳動物と鳥類に広く分布しています。

人に感染するウイルスのタイプはごく限定されていますが、カモにはすべてのタイプのウイルスが感染する可能性があるとされています。カモは夏季にシベリア、カナダやアラスカの北極圏に近い営巣湖沼で、インフルエンザウイルスに水系経口感染（湖沼の水を飲んで感染）し、腸の上皮細胞で増殖したウイルスをふん便とともに排泄（せつ）します。秋になると、越冬のためにカモは南方に渡ります。その時に、カモの渡りの飛翔路に沿って、あるいは越冬地で、ウイルスが家禽や家畜に感染、伝播（でんぱ）します。

特に、ウイルスがニワトリ集団に侵入し、数カ月にわたってニワトリからニワトリに感染を繰り返すと、ニワトリに対する高い病原性を獲得することが経験されています。これを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼ぶのですが、ニワトリの鶏舎を一夜で全滅させてしまうこともあります。

▽人への感染

鳥インフルエンザウイルスは、通常、人に感染することはありません。しかしながら、感染した鳥に触れる等濃厚接触をした場合など、きわめて稀（まれ）に鳥インフルエンザウイルスが人に感染することがあります。

通常人に流行するウイルスは、人の鼻や喉（のど）などの上気道に親和性が高いのですが、鳥インフルエンザウイルスは人の気管支や肺などの下気道に親和性が高いため、多くの症例で重症の肺炎を発症する傾向にあります。

近年、エジプトにおいて「H5N1」というタイプ、中国においては「H7N9」というタイプの鳥インフルエンザウイルスが人に感染した事例が報告されています。また、WHO（世界保健機関）によると、中国において「H5N6」というタイプのウイルス（今シーズン、日本で発生した高病原性インフルエンザと同じタイプ）が人に感染した事例が、2014年5月から2016年12月7日までに16例が報告されています。

特に、中国で人に対する感染が発生している「H7N9」というタイプのウイルスは、昨年9月以降12月までに114例の報告があり、今年に入ってさらに拡大しています。

このウイルスは、人には肺炎などの重篤な症状をきたすのですが、鳥が感染しても通常目立った症状を示さないと報告されています。そのため、人が気付かないうちに野鳥や家きんの間でウイルスが蔓（まん）延することが危惧（ぐ）されます。

また、限定的ながら、人から人への感染が報告されており、感染者から家族内などで二次感染が起こる可能性があります。

感染者の多くは鳥への接触歴があるため、特に鳥インフルエンザが発生している国に渡航する際には、鳥が生きたまま売買されている市場や、家禽類が飼われている場所に近付かない、などの注意が必要です。（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝

高病原性鳥インフルエンザの発生状況（2016年11月以降）

国内発生（家きん）	平成28－29年	※すべてH5N6亜型
青森県青森市	あひる	（約1.8万羽） 2016年11月28日
新潟県関川村	採卵鶏	（約31万羽） 2016年11月28日
新潟県上越市	採卵鶏	（約24万羽） 2016年11月30日
青森県青森市	あひる	（約4700万羽） 2016年12月2日
北海道清水町	採卵鶏	（約28万羽） 2016年12月16日
宮崎県川南町	肉用鶏	（約12万羽） 2016年12月19日
熊本県南関町	採卵鶏	（約9.2万羽） 2016年12月26日
岐阜県山県市	採卵鶏	（約8.1万羽） 2017年1月14日
宮崎県木城町	肉用鶏	（約17万羽） 2017年1月24日
佐賀県江北町	肉用種鶏	（約7.1万羽） 2017年2月4日

海外の主な発生状況
ヨーロッパ全域　H5N8亜型（一部でH5N5亜型）
エジプト、インドネシア　H5N1亜型
中国、韓国、台湾等　H5N6亜型

農林水産省ホームページより抜粋